Weekly Eyes ～エネルギー Energy ～

エイチ・エス・フューチャーズ株式会社

2008/11/21

□ アナリスト週間相場予想

	原油 OIL	ガソリン Oil	灯油 Oil
江崎	↗	↗	↗
西	↗	↘	↗

Pick up News

〔注目スケジュール〕
11/26　米エネルギー情報局（EIA）週間在庫統計
　27　原油・石油製品供給統計週報
　　米国休場

□ テクニカル分析（担当：西 勝之）

先週に引き続きエナジーセクター全体は売り方針。貴金属や穀物セクターがここ一週間10月末の安値をサポートしていたのに対してガソリンを中心にエナジーセクターは10月末安値を他セクターに先駆けてブレイクダウンし、商品相場全体の弱さを先導してきている。ボリンジャーバンドに目を移すとガソリンの日足は7月高値から数えて4度目の下降バンドウォークに突入しており、灯油と原油もきっちり下降バンドウォークを示現しつつある。NY原油も心理的サポート50ドルを割り込み、東京エナジー市場と同じく下降バンドウォークを示現、お世辞にも当方買い方針は伝えられない。先週に引き続き売り方針変化なし（11/21　前引け現在）

□ ファンダメンタル分析（担当：江崎 和弘）

NY原油は50ドルの節目をとうとう割り込んだ。石油輸出国機構（OPEC）の早急な追加減産が行われる確率も上がったと見ることはできるが、再三指摘しているように減産だけでは相場を反転させることは難しいだろう。需給バランスを背景に動いている以上、需要回復が相場回復の前提条件である。その点に関して、景況感が改善する兆しは全く見えてこない。また、米国では自動車業界に対する救済案も出口が見えず、先行き不透明感を募らせる結果となっている。

OPECは既に日量150万バレルの減産に踏み込んでいるが、実際のところ産油枠が遵守されているかは疑問であり、そもそも国際エネルギー機関（IEA）による需要予測を見ても、2008年の需要は年初の予測よりも160万バレル下方修正されている。毎月発表されるオイル・レポートでの修正幅は小幅に留まっているが、積み重なればそれなりの規模に拡大しているというわけである。OPECが減産しても、景気悪化で需要予測が引き下げられれば効果は低下する。こうした流れを念頭に置いて、下値探りの現状を受け入れる必要がありそうだ。

現物市場を見れば、価格低下は消費者にとってメリット大だが、これが必ずしも需要喚起にはつながっていない。先安感が強ければ買い控えから需要は先延ばしされる。元売りにとっては何とか下落を止めたいのが本音だろうが、現状では抗うことは難しい。米自動車業界の行方、株価などに気を配りながらも、当面は戻り売りスタンスを堅持すべきであろう。NY原油の目標価格はおのずと引き下げられていくものと考えられる。

◆添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

許可番号RE0080（許可取得日2008年11月21日）